

いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」 作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝 展覧会ボランティア募集！

ちひろ美術館・東京では、いわさきちひろの生誕 100 年にあたる 2018 年、いわさきちひろと、さまざまな分野で活躍する作家が「Life」をテーマにコラボレートする展覧会を開催してきました。「Life」展の最後を飾る展覧会 **作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝** では、展覧会の魅力を来館者に伝えるボランティアを募集します。来館者と作品を「つなぐ」楽しみ、来館者の「！」を引きだすよここびを、いっしょに味わってみませんか？

●「Life 展」 作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝

ちひろ美術館・東京は、ちひろが亡くなるまでの 22 年間に過ごした場所に建っています。子どものころ、ちひろの絵が好きだった祖母に連れられて来館したこともある長島有里枝。長島はこれまで、記憶や身近な人との関係性を手掛かりに、自身のライフヒストリーや社会の陰に隠れてきた女性の創造性に光をあてる作品を制作してきました。アートを通じて、既成の価値観に疑問を呈し、揺さぶり続ける長島とのコラボレーションにより、ちひろの新しい魅力が解放されます。



いわさきちひろ 箱に入った少女 『あかちゃんのくるひ』(至光社より) 1969 年



長島有里枝 Still Life #4 from the series 家庭について/about home 2015 年
©Yurie Nagashima / MAHO KUBOTA GALLERY

●いわさきちひろ (1918-1974)



いわさきちひろ 1973 年

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。1950 年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。同年、松本善明と結婚、翌年、長男猛を出産。1956 年 小学館児童文化賞、1961 年 産経児童出版文化賞、1973 年『ことりのくるひ』(至光社)でポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞。1974 年 肝ガンのため死去。享年 55 歳。

● 長島有里枝 (1973-)



©Masashi Asada

東京都生まれ。現代美術作家。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。カリフォルニア芸術大学 MFA 修了。2001 年第 26 回講談社エッセイ賞を受賞。自分や家族、友人など、身近な人や品物を題材に、写真や文章、インスタレーション作品を制作する。

長島有里枝からのメッセージ

私は、ちひろさんが子どもを数多く描いたのは、ちひろさん自身が子どもの心を持っていたからではないか、と思うのです。彼女が描いた子どもの多くは、大人が求める姿ではありません。その視線はまるで、自分を見ているかのように対等です。

作家であり、母であり、女性である。そういう意味で私とちひろさんには共通点がある、ともいえますが、私が最も共感を覚えるのは作家としての彼女です。好きなことを続けるには、自分を信じるしかないから、人にも寛容になれるのかもしれない。ちひろさんのやわらかさがそのようなものだとしたら、ちひろさんが「絵を描くことを深く愛した人」だったことに注目すべきだと思うのです。

● 展覧会内容

〈描くことを深く愛した人〉

画家であり、母であったちひろの軌跡に沿って、長島が選んだちひろの絵をちひろの言葉とともに展示します。ちひろのなかにあった子どもと共振する感性や、自身の価値観を信じて到達した独自の画境を紹介します。

〈「家庭」を通じて見えてくるもの〉

長島にとって、日々の暮らしに子どもを迎えたことは、アーティストとしてのひとつの転機となりました。これまで発表を控えていたわが子が幼いころの姿を撮った写真を展示します。そのほか、長島の近作のひとつ「家庭について / about home」を、ちひろが家庭での日常風景をとらえた素描とともに再構成して展示します。誰にとっても自明なようでいて、実は曖昧な「家庭」という概念をふたりの作品を通して見つめます。

〈ふたりの想い〉

2011年の米国同時多発テロを妊娠中にテレビで目撃した長島は、戦争が遠い場所や過去のものではないことを実感し、2004年から、第二次世界大戦中に日本の女性たちが行った「千人針」をテーマにした作品に取り組み始めました。2005年に発表されたこの作品を軸に、ちひろの絵とともに構成するインスタレーション作品を展示します。過去から未来に向けて、ふたりの想いが交錯します。



1



2



3



4

1. 長島有里枝 無題 2006年頃 ©Yurie Nagashima
2. 長島有里枝 from the series "5 comes after 6" 2014年 ©Yurie Nagashima / MAHO KUBOTA GALLERY
3. いわさきちひろ 大きな顔の自画像 1947年5月24日 (28歳)
4. いわさきちひろ はだかんぼ 『おふろでちやぶちやぶ』(童心社)より 1970年

いわさきちひろ生誕 100年サイト 100.chihiro.jp

【展覧会概要】

展示名： いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」 **作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝**

主催： ちひろ美術館

特別協賛： 株式会社ジャクエツ

協賛： 株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

協力： キリン株式会社、MAHO KUBOTA GALLERY

後援： 絵本学会、（公社）全国学校図書館協議会、（一社）日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、（公社）日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区

会期： 2018 年 11 月 3（土・祝）～2019 年 1 月 31 日（木）

会場： ちひろ美術館・東京（〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2 <http://www.chihiro.jp/>）

●ボランティア応募について

<応募条件>

- ・18 歳以上の方（高校生不可）
- ・責任を持って活動に参加できる方
- ・この展覧会に興味を持って参加できる方
- ・来館者とのコミュニケーションを楽しめる方
- ・ちひろ美術館の活動全体についてご理解いただける方

<活動内容>

- ・いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」**作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝** 展覧会会場にて、来館者とコミュニケーションを取りながら、作品の楽しみ方を伝えていただきます。
- ・活動期間： **11/3（土・祝）～2019 年 1 月 31 日（木）** の展示期間中、主に土日祝や、12/15（土）の感謝デーなど混雑が予想される日を中心に希望日を伺いながら調整します。シフトは半日交代（2～3 時間ずつ）です。
- ・交通費：実費支給（日額 1000 円まで）
- ・いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」コンセプトブックと*年間パスポートを差し上げます。
*ちひろ美術館・東京と安曇野ちひろ美術館に、2019 年 11 月末までの 1 年間、何度でも入館できるパスポート

<応募方法>

- ・規定エントリーシート（ボランティア歴があればそれも記入）を郵送または持参（メール添付は不可）
送付先： 〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2 ちひろ美術館・東京 ボランティア係宛
（応募書類は返却いたしませんのでご了承ください）
- ・締切： 10 月 30 日（火） 必着
- ・選考結果通知： 10 月 31 日（水） 電話、または e メールでご連絡差し上げます。
- ・研修： 研修は、①②とも同じ内容になります。**※どちらかを必ず受講してください。**
①11 月 3 日（土・祝） 14:00～16:00 ちひろ美術館・東京にて
②11 月 10 日（土） 10:00～12:00 ちひろ美術館・東京にて

<問合せ先>

ちひろ美術館・東京 ボランティア活動担当

chihiro@gol.com または 03-3995-0612（開館している日の 10～17 時）